



2灯台を繋ぎ平戸生月島を灯すプロジェクト

実施団体名：灯台からのメッセージ運営委員会

対象灯台：大バエ鼻灯台・生月長瀬鼻灯台（長崎県平戸市）

企画概要

大バエ鼻灯台と長瀬鼻灯台を繋ぎ、
2つの灯台とその周辺の魅力を発信し、忘れられかけた長瀬鼻灯台の利活用を促します。

2022年度の調査・実験によって、大バエ鼻灯台の歴史的、
文化的背景の豊富さ（捕鯨の歴史、勇魚鳥歌、渡鳥の中継地、塩俵断崖、隠れキリシタン世界遺産等）に、
観光資源としての灯台の利活用・集客の可能性を証明できました。

今期の事業では、大バエ鼻灯台からサンセットウェイを進み約10kmの距離にある長瀬鼻灯台をクローズアップし、
長瀬鼻灯台周辺の整地、2つの灯台を繋ぐことで、海・空・陸・人が繋がりを深め、広げます。

生月島全体の活性化に結びつける。島内の小中学校に協力を得て子供ガイドボランティアや看板の設置。

地元の人々を中心に灯台と生月地域の魅力の再認識を促し、島全体を活性化します。

参考情報



生月長瀬鼻灯台

タイル貼りで、少女のように
とても美しい灯台にもかかわらず、
草木に埋もれ、案内板も1つもなく、
人が近づけない場所となっていて、
地元の人々もその存在を
忘れかけていました。



南北2つに分かれてている生月島

生月島は、捕鯨の歴史、柱状節理など独特の景観、戦争の遺構、
渡鳥の中継地、隠れキリシタンの聖地など
多くの観光資源があります。

さらに、2つの灯台の間には国内外のCMや
撮影のロケ地になるサンセットウェイがあります。

しかし歴史も文化も人々の交流も南北で2つに分かれています。



大バエ鼻灯台

前回2023年3月に
灯台マルシェイベントでは
集客実証実験で想定参加者300人
に対し約1,000人の集客に成功!!
地元が盛り上がりました。

(2023年の島の人口は約4,600人)



地元の小中学生と一緒に 灯台を盛り上げる！

地元小学生による島のお話の紙芝居を作成し、
マルシェイベントで披露。
地元中学生による島の魅力を伝えるガイドを実施。
地元小学生による
生月長瀬鼻灯台の案内看板イラストを作成。



忘れられかけた灯台の復活

南部にある生月長瀬鼻灯台は地元の人も
存在を忘れかけた灯台。
草木に埋もれ、近づく人もいなくなった
灯台への道を整備し、案内看板を設置して、
観光資源としても活かせるよう復活させます。



2灯台を繋いで島をひとつに！

歴史的背景により
南北二つの地域に分かれている生月島。
島の人たちが
灯台を基軸としたプロジェクトに参加することで、
仲間意識を作り、生月島としてひとつになって
盛り上げるきっかけ作りにします。



ツナガル灯台マルシェで灯台に集う

前回は島の人口の1/4にも当たる
約1,000人の集客に成功し、
地元の方々が一番驚いていた。
今回はこのイベントで、
さらにこの2つの灯台との関係人口を増やし、
灯台に集うきっかけ作りとします。



達成目標

2灯台を繋ぎ生月島全体を盛り上げてひとつに！
生月長瀬鼻の存在をクローズアップ！ 灯台マルシェ継続開催への足掛かりとする！

企画運営パートナー



1

平戸市

今回の灯台からのメッセージ運営委員会の理事長には平戸の黒田市長に就任いただきました

2

生月地区まちづくり運営委員会

大バエ灯台地区のまち協、草刈りなど人的ご協力

3

山田・館浦地区まちづくり運営委員会

長瀬鼻灯台地区のまち協、ボランティアガイドなど

4

平戸市生月支所

地元職員のみなさんのボランティア協力

5

「島の館」生月博物館

歴史や文化の情報はすべて集約



他

館浦漁業協同組合

生月漁協協同組合

平戸市文化観光商工部

長崎県文化観光国際部 文化振興・世界遺産課

公益財団法人佐世保観光コンベンション協会

生月小学校

山田小学校

生月中学校

生月自動車

吉永建設



イベント当日のボランティアスタッフは約80名！総スタッフ数106名！

1

生月小学校 >>> 6年生全員（10名）

授業4枠を使わせていただき生月長瀬鼻灯台の案内看板用のイラストを描いてもらいました。
マルシェ当日も遊びに来てくれました！

2

山田小学校 >>> 学童に通う4~6年生（14名）

10月~11月毎週火曜日の学童の時間（全5回）を使って生月島のお話2つの紙芝居を作ってもらいました。
練習を重ね、イベント当日は上手に紙芝居を披露してくれました！

3

生月中学校 >>> 有志7人によるボランティアガイド

島の館の学芸員の方にいただいたガイドの文章を、
生徒たちが自分達の言葉に置き換えて
伝わりやすく工夫してガイドをしてくれました。

4

地元住民のボランティアさん >>> 約80名の方が積極的にボランティア参加！

2つのまちづくり運営協議会さんのご協力を得て、
地元住民の方にボランティアスタッフを募集したところ、
多くの方にご参加いただいた上、事前準備の草刈りや清掃等も多大なご協力をいただきました！

5

キャンプ場SUNSEA >>> 地元若者が起業した灯台近くのキャンプ場

地元の若者が立ち上げたばかりのキャンプ場がコラボイベントを実施！
次年度以降の開催にも積極的に参加計画検討

👍 良かったこと



👍 「生月島にこんな素晴らしい灯台・場所があったんだ」と再認識するきっかけとなり、子供たちも大人もそれぞれが「生月島のために何かをする」ことができた！という共感をたくさんの方が感じてくれた実感！

👍 マルシェの出店者さんとステージ出演者さんや、コラボイベントしたキャンプ場とバードウォッチングの先生など、このプロジェクトがきっかけでたくさんのお会いがありその後いろんなイベントやプロジェクトなど新しいストーリーが生まれている！



反省点・改善案



2灯台を繋ぐ陸ルートと海ルートの案内不足であった。



メディアを使っての告知ができなかった。今後の大きな課題。



地元のお祭りやイベントの時期と重なってしまい、せっかく協力してくれた地元のまち協の方々負担をかけてしまった。今後は開催時期を見直す必要がある。

事業活動として 何をするのか

～価値を提供する源泉となる活動～

01

事業活動その1

長瀬鼻灯台へのアプローチと周辺の 整地及び誘導看板の設置

事業活動その1

生月長瀬鼻灯台へのアプローチと周辺の整地及び誘導看板の設置



草木に埋もれた灯台

灯台までの道のりは竹藪に覆われ車でも近づくことができないほどの状態になっていた。

昔は牧草地で見晴らしの良い場所だったにもかかわらず、数名の地権者さんたちも高齢化し、地元の力だけで草刈りできるレベルではなくなっていました。



案内看板の設置

観光地図に生月長瀬鼻灯台の表記はあるが、実際に行こうとすると案内看板もなく、行きたくてもいけない灯台。

地元の子供たちも存在を知らなかった。

草木に埋もれ地元の人々にも忘れられかけた灯台を復活させる

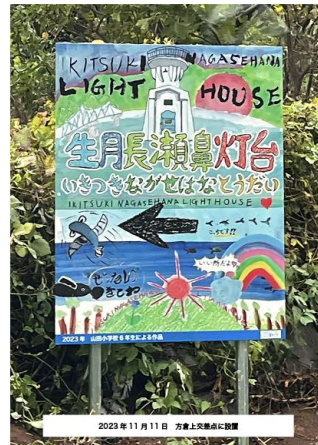
灯台への道のりの整備と案内看板の設置で灯台へ行けるようになりました！

1 灯台への道のりと 周辺の整備

灯台までの安全な道を整備し、
以前のような見晴らしの良い景観を取り戻しました。
全体がタイル貼りの美しく可愛らしい長瀬鼻灯台なのに
現在は地権者の方々の高齢化により、手入れが行き届かなくなり、
このまま放置しては誰も近づけない幻の観光地となって
灯台の存在自体が人々の記憶から消えてしまうところでした！

2 灯台への案内看板の設置

山田小学校6年生の授業の枠で、
案内看板に使う絵を描いてもらい、島内の3箇所を設置しました。
参加した児童さん10人中1人も長瀬鼻灯台の存在を知らませんでした。
子供達がこの灯台の存在を知るキッカケになっただけでも
やった甲斐があったと思います。



2023年9月25日 6年1組 志水 響
今日の感想
今回は初めて、海と灯台プロジェクトのことを知り、
そして、灯台の絵を描いてみて思ったのが、灯台が
こんなにきれいな灯台があるんだなと他の人に
この灯台のことを知ってもらいたいな、と思い、
これからも、生月のよさや景観のきれいなことを、島の人も
にも知ってもらいたいなと思ったり、これから生月島よくなる
ようにいろんなイベントにも参加していきたいと今日の学習
学びました。今日来てくださりありがとうございました。

2023年9月25日
9月25日6年内山 侘輝
感想
が今ある、灯台が少なくなってしま
ことを知って、ほくほくしました。
灯台が灯台がもっと利用されてほしい
今日、生月に、初めて灯台があること
を、実際に灯台の絵も書いたので、
灯台をもっと大切にしたいです。

2023年9月25日 6年1組
塩本 麻那
感想
生月島灯台があることを知り
て、
灯台の絵を描いてみて、
灯台が少なくなってしま
なことを知って、ほくほく
灯台が灯台がもっと利用
今日、生月に、初めて灯
を、実際に灯台の絵も書
灯台をもっと大切にしたい
りがとうござい

👍 良かったこと



👍 観光客も灯台へ行きやすくなり、地元の人々も灯台の存在とこの景観の素晴らしさを再認識することができた。

👍 地元生月のために何か自分にもできることがある！という意識の芽生えを感じることができた。



反省点・改善案



今後継続的にこの灯台周辺の景観とアプローチを維持していくために行政の協力が必要と思われる。永続的に維持するための施策が必要。

02

灯台ツナギ陸ルート、海ルート

事業活動その2 灯台ツナギ陸ルート、海ルート

ヒッチハイク体験で2灯台間を楽しむ

陸のルートでは中学生による
ボランティアガイドを実施

2灯台と島を巡る観光クルーズ

海のルートでは
地元まち協のボランティアガイド



ツナガル海ルート 10:00~17:00

2つの灯台と、鯨島
塩俵の断崖や長瀬八洞
ダンジグ様、聖地中江ノ島を
海から見える貴重なクルーズ!!

10時, 12時, 14時, 16時
17時 (サンセットクルーズ)
おひとりさま ¥3,000 (税込)
事前予約優先
ご予約はこちらから▶

有料

生月島一周クルーズ!





事業活動その2 灯台ツナギ海ルート・陸ルート

1 灯台ツナギ陸ルート

ボランティアガイドの中学生有志7人には、島の館の学芸員の方にいただいたガイドの文章を、生徒たちが自分達の言葉に置き換えて伝わりやすく工夫してガイドをしてくれました。
生徒さんたちは自分の島の魅力を伝えるボランティアガイドにやりがいを感じ、貴重な体験になりました。

ヒッチハイク用の車4台と、トゥクトゥク2台を事務局で準備し、来場者の方に乗って移動していただきました。
ヒッチハイクの車両は事務局スタッフ（実際には平戸市の職員さん）が運転しました。

2 灯台ツナギ海ルート

38人乗りの漁船で灯台と島を周遊するクルーズを実施。山田・館浦地区のボランティアガイドが灯台と島の魅力をガイドしました。
10時、12時、14時（悪天候のため欠航）、16時、17時（サンセットクルーズ）。
17時以外はボランティアガイド付きで乗客数23名。

良かったこと



クルーズのガイドが秀逸で
今後のボランティアガイドの育成の必要性と
重要性が明確になった。



中学生ガイドの生徒たちは、
地元の魅力を伝える意義とやりがいを感じることができ、
また大人たちもそんな中学生を
応援する姿勢が素晴らしかった。



反省点・改善案



ヒッチハイクの仕組みは改善の余地あり、
来場者の積極的な参加の呼びかけや、事前告知が必要だと感じた。



クルーズは周知力が足りず、集客があまり伸びなかった。
メディア等をもっと利用して周知・告知に力を入れる必要がある。

03

灯台マルシェ・灯台ステージ

事業活動3 ツナガル灯台マルシェ・ステージ

地元素材を使ったメニューや
ハンドメイド雑貨など

子供達の現代のダンスや伝統芸能
地元バンドの演奏など

ツナガル灯台マルシェ 11:00~17:00

- Moving Café (ピーフサンド)
- One two (ハンバーガー)
- katipaibakery (スイーツ)
- 山上発酵屋 (スープ)
- 館浦漁協 (シイラフライ)
- パルパン (パン)
- しおん (たこやき・豚汁)
- マルイ水産 (ラーメン)
- 宇多屋 (カレー)
- minba (ハンドメイドグッズ)
- ・・・and more !?



*お支払いは現金のみとなります
*出店者様は変更になる場合もございます

地元の飲食店を中心に、佐世保市、長崎市
など、市内外から13の店舗が出店。

ツナガル灯台ステージ 12:30~17:00



*内容は変更になる場合があります。

- 上奥まいこ (MC/mini Live)
- STUDIO SHINE (dance)
- Sopro da terra (Live)
- マロマロず (Live)
- BeatlesBand (Live)
- 生月勇魚捕唄 (伝統芸能)・・・and more♪
- STUDIO SHINE▼ Sopro da terra▶



ステージ司会：上奥まいこ
長崎出身のシンガーソングライター
全国各地でライブ活動中

◀生月勇魚捕唄 (いきつきいさなとりうた)



事業活動その3 ツナガル灯台マルシェ・ステージ

1

ツナガル灯台マルシェ

約100名のボランティアスタッフにマルシェで使用できるマルシェチケット（一人当たり700円分）を配布。出店された13店舗ではほぼすべての商品が完売し、どの店舗も大盛況。急遽出店が決まった地元農家の方々が販売する「やきいも」は普段灯台下で無人販売している「サツマイモ」を焼いたもので、初めてこんなふう直接販売した。これからも販売したいと新しい発見があったようです。



2

ツナガル灯台ステージ

MC上奥まいこミニライブ、来賓挨拶（平戸市長、佐世保海上保安部部長井上氏）、島の館館長中園氏による生月の歴史文化について、地元ダンススクール子供たちによるダンスパフォーマンス（約80名）、平戸市長ミニライブ、地元ミュージシャンライブ2組、勇魚捕唄。地元のバンド演奏に加え、運営委員会の理事長も務めていただいた平戸市の黒田市長もステージで2曲を弾き語り披露。子供達は現代ダンスや地元の伝統芸能「勇魚太鼓」など、その他生月小学校の学童14名による生月のお話の紙芝居も4回披露し、回を重ねるたびに上手になっていきました。



👍 良かったこと



今後もこのようなステージイベントをしたいという
地元の希望が湧いてきたため、
灯台前の（ステージイベントには邪魔になってしまう）
植え込みをなくして、
もっと広くして人がもっと集まりやすい、
盛り上がる場所するべく今後協議をしていくと
前向きな検討が始まっている。



地元の人が口々に、
こういう機会がないとなかなか灯台に来ない。
数十年ぶりに訪れたが、やっぱりここは素晴らしい景色。
だと再認識する人が多かった。
今後も灯台でイベントを実施する良いきっかけとなった。



反省点・改善案



2灯台や海ルートや陸ルートなどを中継でつなぐ企画を充実させれば、
もっと全体がつながって盛り上がるステージになると可能性を感じた。



メディアなどでの周知ができていなかった。
もっと積極的に周知活動できればより多くの集客が見込めると感じた。



顧客ターゲットと 提供するベネフィット

メインターゲット

1 平戸市内のファミリー層

なかなか行く機会のない灯台で行われるイベントに参加し、地元生月・平戸の素晴らしさを再認識してもらいたい。

サブターゲット

2 集客は西九州させば広域都市圏

生月島。平戸市。松浦市。佐世保市。
伊万里市（佐賀県）等、長崎県北部地域と近隣市町村。
西九州させば広域都市圏およびその周辺に観光可能な層。
約1,200名の集客見込み。
ファミリー層に加え、灯台好き、マルシェ好きな女性層、
ドライブ趣味の若者グループなど。



顧客ターゲットと提供するベネフィット

1 地元のイベント等とのスケジュール調整の必要性

9月～11月はお祭りやイベントなどが目白押し

9月の稲刈り・台風の時期～10月11月は運動会やお祭りなど地元も学生もとにかく忙しい時期で、今回実施した11月11日も前後に北部の勇魚祭り、や南部の館浦漁協のシイラ祭りがあり地元の方々は前後含む3週間ほぼ休みなく稼働せざるを得なかった。しかも11月11日イベント当日は南部の須古踊りサミットの実施があり、今回の集客目標の1,200名という集客数値は達成できなかったが、逆に前回同様の1,000名の来場者は十分な人数ではなかったか。

2 西九州広域都市圏への集客

車で1～2時間圏内の集客が弱かった

車1～2時間の距離である平戸市・松浦市・佐世保市・佐賀・福岡から集客できる可能性があったが、集客は平戸市、佐世保市でのチラシ3,000枚とSNSでしか発信できていなかった。メディアを使った周知活動ができればもっと集客し盛り上げられる余地がある。

3 近隣施設との連携

大バエ鼻灯台すぐ下の野営場などとの今後の連携

今回は近隣のキャンプ場とはコラボイベントとして開催してもらったが、キャンプ好きの層にアプローチできればもっと集客でき、新しいコンテンツも生まれる可能性がある。



👍 良かったこと



灯台へ1,000名+スタッフ200名を集めるためには臨時駐車場の確保が必要。今回は地域住民の方、地権者、漁協にお願いをして5ヶ所の駐車場を準備。普段駐車場として使用していない場所でもあるため、事前の整備やゴミ拾いなど、地元の方々にもボランティアとしてご協力いただき準備し、連帯感が生まれました。



反省点・改善案



5つの駐車場を確保したが、何ヶ所もあると複雑になるため、なるべく少なく集約し、台数を多くできるように準備する必要がある。シャトルバスは駐車場と大バエ鼻の往復のみにした方が効率が良い。

チャネル

～顧客に事業の価値を届ける
経路、確認する経路～

事前準備で地元の人々を巻き込む

事前準備として実施した、
駐車場や遊歩道の草刈りなどの整備、紙芝居の製作、
案内看板の製作、臨時駐車場を獲得するにあたっての
地元の人々との交渉と掃除。

マルシェの店舗出店案内やステージ演舞の交渉、
歴史的文化的背景の掘り下げ、2灯台を繋ぐ陸のルート、
海のルートの事前確認、交渉など準備をしながら
地元の人々、平戸市の方々にご協力いただくことで
人を巻き込み、繋ぎ、イベント実施につなげる。

灯台と島の魅力を伝える周知活動

生月長瀬鼻灯台のアプローチ整備、
案内板設置により灯台自体の存在を周知。

ポスター、チラシ、Facebook、Instagramを活用して
イベントの内容や事前告知を発信。

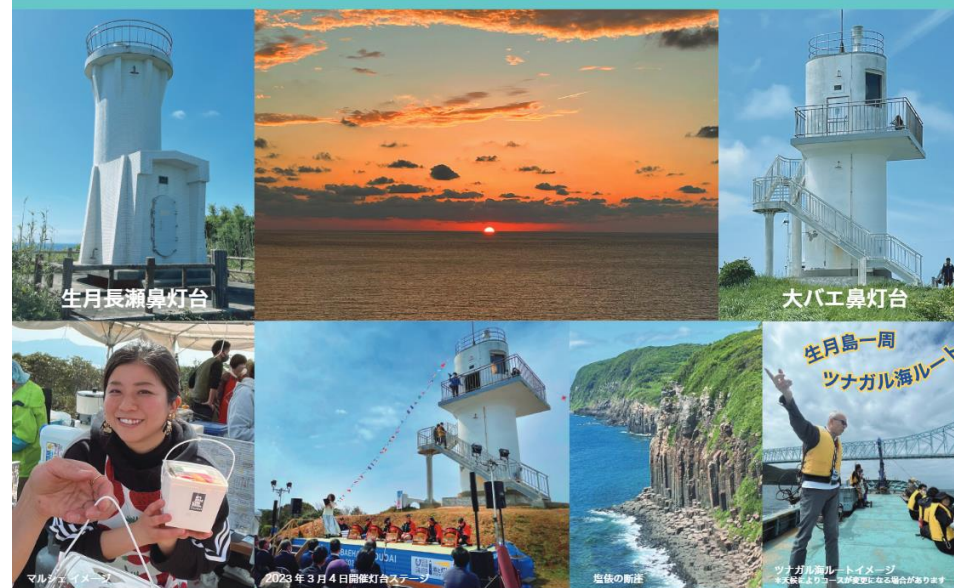
西九州広域都市圏を見越して
佐世保観光コンベンションセンターと連携して
web上で情報発信。

生月島で遊ぼう!
灯台マルシェ
灯台ステージ
DANCE!
LIVE!
勇魚捕唄

ガイド付き
生月一周
クルーズ!
コドモガイドと
楽しい乗り物下
サンセットウェイ!
生月紙芝居!

2023 11.11 SAT
OOBAEHANA LIGHTHOUSE
NAGASEHANA LIGHTHOUSE

2023 11.11 SAT
平戸市生月町 大バエ鼻灯台・長瀬鼻灯台下開催!
灯台ステージ・灯台マルシェ開催!
「ツナガル灯台陸ルート」乗り物やウォーキングで周遊!!
「ツナガル灯台海ルート」2灯台と自然・歴史・文化遺産クルーズ!!!
荒天時 11/12 (日) に順延、12 (日) 荒天時は生月町開発総合センターにて開催予定



計画通りの部分、不足部分、そして予想以上の可能性

ほぼ計画通り実施、周知活動は不足、将来の可能性を感じる発見もあった

1 準備段階から多くの人々を巻き込むことは大成功

イベントの準備であるさまざまな事柄を、地元の人々、平戸市、佐世保市、漁協、学校、まち協、保存会、学童、博物館、などなどたくさんの人を巻き込んで協力していたことが集客の成功につながった。

2 メディアの活用ができなかった

イベント告知についてメディアの活用が全くできていなかった。せっかくのいい部分を取り上げてもらえるよう今後は事前に動くことが必須。

3 予想外の地元チームとの連携～将来性が見えた

地元の若手企業との繋がりができ、今回はコラボイベントのみの実施だが、今後はこの団体を中心として発展させていける可能性ができた。



👍 良かったこと

👍 事前活動で多くの人を巻き込んだため
口コミでかなりの人に伝わっていた。



反省点・改善案



メディアを活用し、イベント全体の周知をしっかりとすべき。
(特に海ルート、陸ルートなど参加に負荷がかかるもの)

顧客との長期的な
関係構築のために
実行できる施策

SNSの活用

FacebookとInstagramでイベントの情報をこまめに（毎日）発信する

メディアの活用

メディア露出していただけるよう新聞、地元局、ラジオ等に周知をする。

地元企業を中心に マルシェ出店をご案内

前回も出店してくれた店舗を中心に
出店案内をする。
地元の人も楽しめるよう、
少し離れた地域からの出店も必要。



1 SNS活用

Facebook、Instagramの活用

1ヶ月前からFacebookとInstagramで毎日イベントの詳細情報を発信。

2 メディアの露出

各メディアへの働きかけ

周知に必要な情報をしっかり伝えることができなかった。

3 マルシェ出店者様とのコラボ

灯台メシのメニュー開発ではなく幅広く

実証検証で前回実施した灯台メシメニューは今回は実施せず、自由な商品展開で出店者さんを募ったが、それぞれ灯台にちなんだ商品を準備してくれた。

良かったこと



細かい情報はSNSで発信することができた。
Facebook友達申請138名、インスタはフォロワー100名。



反省点・改善案



今回はイベントの1ヶ月前からのカウントダウンしか発信できなかったが、今回作成したアカウントを活用して少しずつでも常時発信を続け、事前準備で生まれるストーリーも発信していく。



事前にしっかりメディア露出計画をし、実行していく必要がある



今回コラボしたキャンプ場だけでなく、地元の店舗さんや企業などと連動企画を実施し、巻き込みつつ灯台を盛り上げる活動を発展させる。

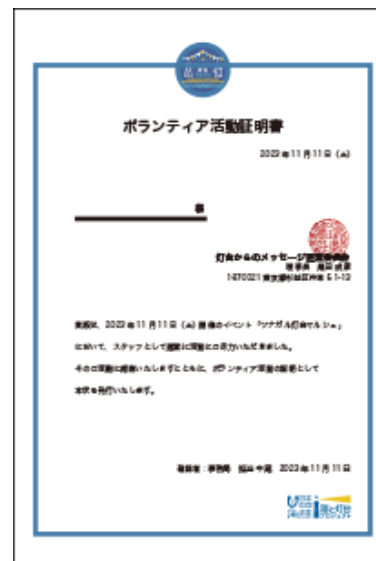
事業に必要なリソース ～人、物、情報、許認可～

01

人、物、情報

人

事業企画プロデューサー
 事業進行ディレクター
 イベント運営スタッフ
 地元小中学校
 地元まち協、漁協、博物館、
 平戸市
 海上保安部第七巻区
 佐世保観光コンベンションセンター
 佐世保ボランティアチーム



物

ポスター、チラシ、スタッフジャンパー、
 案会看板、誘導看板、シャトルバス、バ
 ス内アナウンス、Instagram、Facebook、
 クルーズ申込サイト、テント、椅子、ス
 テージ、仮設トイレ、マルシェブース、
 マルシェチケット、ヒッチハイクカー、
 トゥクトゥク、ボランティア証明書、ス
 タッフパス、



情報

生月島の歴史、文化、食、
 灯台までのアクセス方法、
 灯台の歴史、クルーズ情報等

1 人

当日のスタッフは106名！
協力を得た人を加えると200名以上

- 事業企画プロデューサー…浜田理香、中尾和美
- 事業進行ディレクター…船原雅史（平戸支所）、生月地区街づくり運営協議会、薬味（地元企業）
- イベント運営スタッフ…ウッドオフィス5名、岡野知行、生月地区まちづくり運営協議会皆様
- 広報スタッフ…浜田理香、薬味（地元企業）
- 経理スタッフ…worksN
- 協力者・企業・団体…生月地区街づくり運営協議会、山田館浦地区畝医協議会、御崎地区、館浦漁協
- 平戸市…平戸市長、生月支所、観光部、広報広聴課、島の館博物館など
- 第七管区海上保安部 + 計画時の想定に加えて、以下も
- 協賛企業24社
- その他 株式会社ガッタライ、野鳥研究家山田先生

2 物

予定通りのものが準備できた

3 情報

予定通りの情報を揃え、提供することができた
海ルートのガイド、中学生のガイドは想定以上のクオリティ

アウトプットできたもの
海ルートガイド、陸ルートガイド、
島の物語を紙芝居化して披露「生月鯨太左衛門」「益富右衛門」

良かったこと



特に人的協力者を多く得られたこと、巻き込み型準備をしたことで、将来的に活性化する可能性を秘めた人々の着火剤となれたことが収穫。



反省点・改善案



対面での情報は伝えられたが、SNS等、特にメディアを使った情報発信は大きく改善を図る必要がある。

02

許認可

許認可

自然保護巻事務所

2灯台は国定公園内にあるため確認・申請が必要

地権者

灯台エリアの一部は複数の地権者の確認、申請が必要

地元地区

地元の地区長に確認、嘆願が必要

平戸市

所有地の使用許可

海上保安部

灯台の使用許可

消防署

イベント開催許可

保健所

飲食提供許可

1 許認可

生月地区まちづくり運営協議会他関連機関の協力により滞りなく申請ができた

イベント実施にあたり
灯台の使用許可
国定公園内工作物申請許可
飲食提供許可

灯台周辺の整備をするにあたっての複数いる地権者を生月支所の協力で確認し、許可を得て藪払いを実施、高齢者が多かったため喜んで受け入れていただけた。臨時駐車場として使用した場所は、普段は地元漁師さんが網干しをしている場所や、ゲートボールを楽しめる場所であるため、事前の片付け・清掃を行い、事後にはタイヤの跡が残らないよう整備をしてお戻したところ、地元の方とのコミュニケーションができ協力を仰ぐことにも繋がり、円滑なイベント実施の要因にもつながった

2 補足事項

海上保安部への灯台使用許可

灯台の使用許可や、周辺の整備等の相談をしている中で、航空機を飛行させましょう！とお申し出があり、嬉しいサプライズをイベント参加者さんに提供することができた。



收支報告

2灯台を繋ぎ平戸生月島を灯すプロジェクト

①初期投資（イニシャルコスト）	②運営費（ランニングコスト）	③収益
事務局宿泊・交通費 1,500,000円 スタッフ交通費 500,000円 ステージ実施交通宿泊費 900,000円 2灯台ルートガイドマップ研究費 300,000円 周知成果物調査費用 100,000円 灯台看板調査費用 100,000円 事務局現地調査費用 600,000円 灯台周辺整地調査費用 400,000円 灯台藪祓い費用 800,000円 灯台周辺整地費用 500,000円 灯台看板作成費用 600,000円 灯台看板設置費用 800,000円	実施進行費用 400,000円 ステージ作成費 600,000円 音響・映像・照明 1,050,000円 会場造作費用 600,000円 トイレ等設備費用 600,000円 シャトルバス運行費用 500,000円 乗り物準備費用 400,000円 会場誘導サイン費用 250,000円 周知成果物印刷物作成費用 200,000円 経理事務費用（6ヶ月）100,000円 プロデューサー費 300,000円	企業・個人からの協賛 2950,000円 クルーズ線乗船料 92,000円 グッズ売り上げ 60,000円 飲料販売売り上げ 6,000円
①7,100,000円	②4,900,000円	③3,108,000円

③収益－②運営費

マイナス 1,792,000円

あきらかになった課題と その解決のための施策案

A.利活用事業（コンテンツ）について

課題

灯台と海、生月の魅力をより明確に

より明確に海と灯台、歴史的文化的背景、この土地と自然との関わりなど、豊富なコンテンツをより多くの人に伝えたい。灯台そのものの魅力（灯台の光がどこまで届いているのか、や、夜の灯台の魅力など）、灯台と戦争の遺構、灯台の間のサンセットウェイの魅力、灯台周辺の食材の紹介、海から見た灯台の魅力（クルーズ）、北部捕鯨の歴史、南部の須古踊りなどの伝統芸能、周辺の海の（食の）魅力、灯台と渡鳥の関係、などなど伝えきれないほどの魅力がある。



施策

地元企業とコラボして海の色魅力を伝えるコンテンツ作り

海ルート、陸ルートのガイド内容を文章化、ビジュアル化してサイトや冊子で紹介する

灯台と渡鳥のストーリーをつくり、実際のバードウォッチングと絡めた体験型プラン作り

戦争の遺構を巡るサバイバル的アトラク書のキャンプと絡めて企画など

B.実施体制について～熱量をもった主体となる団体や個人を巻き込むこと～

課題

豊富な魅力を明確にしてより多くの人・企業と永続的な関係性を構築

たくさんの魅力があるにもかかわらず、地元の人だけでは表現、アウトプットできず勿体無い状況となっている。

開催時期の検討

開催時期条件の中で実施したため地元住民の繁忙期と重なってしまった



施策

地元や周辺の企業や人とコラボ（協業）することにより、より多くの人々を巻き込み、永続的な関係性を築いていくことができる

多くの企業や人々が参加しやすくするため時期をずらして開催する必要がある
できれば3月下旬～4月

C.収支について～運営費と収益を将来にわたって均衡させること～

課題

収益をあげられるコンテンツづくりが必要

今回はクルーズの周知がうまくできず収益が難しかった
出店料を取らない代わりに事務局の販売ブースも展開すべきであった
協賛に頼らない収益を生むコンテンツづくりが必要



施策

有料参加型コンテンツはメディアを使ってしっかり事前PRをし、参加者の予約を促す

事務局の販売ブースを設け他と差別化した内容で収益を生む

シャトルバス、駐車場、オプションツアー、などの有料化を検討

今後の地域活性のためにも地元若手企業体が主体になって開催をすることが望ましい。
 また、今回充分にその素養ができた実感しています！
 ツナガル灯台マルシェは灯台を基軸として海、人、歴史、文化、産業素材などをつなぎ、
 地域力の再認識が広がる可能性を感じています！

【今後の計画】 地元企業とのコラボプランを模索し時期を検討して開催

灯台と生月の魅力を最大限に発信できるコンテンツを構築

💡 開催時期の検討

💡 連続性があり収益を生むプチ企画の構築

💡 有識者とのツアープラン

💡 地元企業とのコラボプラン

💡 小中学生や有志によるボランティアガイド育成プロジェクト

